

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

ものとの関わり／奈良市立布目こども園（奈良県）

子どもたちが、仲間になって自由に扱える遊具や素材には、どのような物がありますか？また、子どもたちは、どのようにそれらに関わり、楽しい遊びを展開していますか？子どもたちにとって、自由に関わることで、人との関わりを自然に生み、試したり工夫したりする姿に繋がる環境は、大きな意味のあるものです。今回は、大きな木材、リール、タイヤなど子どもたちの大きな物への関わりから、「科学する心」の動きを見守り、援助している園の実践をご紹介します。



● 真っ直ぐなるかな？シーソーへの挑戦／5歳児



環境の工夫

6月、入園・進級して2か月、子どもたちは、新たな環境にも慣れ、自ら環境に関わり、遊びを展開している。実態を踏まえ、さらに、いろいろなものに興味をもって、試したり工夫したりして欲しいとの願いから環境の工夫を考え、タイヤや長い板やリールなど大きな材料を用意し、自由に扱えるように園庭に置いておいた。

- 保育者は、「子どもたちは遊びからどんなことに気付いていくのだろう」という思いをもって、遊びを見守っていると、タイヤや長い板を使ってそれぞれの学年が遊び出した。
- 2歳児は大好きな手押し車で一本橋に見立てた板の上を歩いて遊ぶ。3歳児はジャングルジムに板を立てかけて坂登りを作り、滑り台遊びに挑戦する。5歳児のDちゃんは、板の上に座り保育者とボール転がしを楽しむ。それぞれの学年で遊び方が違い、子どもたちは工夫して遊んでいた。



✦ 「シーソーを作りたい！」

- 5歳児のAちゃんは、2つのタイヤに渡した長い板の上を渡って遊び始めた。タイヤと長い板から以前テレビで見た「シーソー作り」を思い出し、テレビでも使っていたリールが環境にあったことから、「シーソーを作りたい！」と言ってリールを運んでくる。ここからAちゃんのシーソー作りが始まった。
- 保育者と一緒にリールに板を載せ、板の両端の下にタイヤを置く。板の片側をタイヤに付けるとAちゃんはそっと板に乗り、ゆっくりゆっくり板の上を歩いてみた。
- 板の真ん中に近付くと上がっていた板が下がり、端まで渡りきる。イメージ通り板が上下して、「やったあ！シーソーみたい」と、板の上を行ったり来たり繰り返して歩いている。保育者も「ほんと、シーソーみたいだね」と言って一緒に喜ぶ。



✦ 「シーソーができた！」

- 突然Aちゃんがシーソーから降りて保育室に入って行く。いろいろな素材の中から「これにしよう」と、薄い台紙を選び、何かを作り出している。「何作っているの？」と尋ねると、「シーソーの持つところ」とAちゃん。
- しばらくしてAちゃんがシーソーの所に行き、ガムテープを使って、板に台紙で作った持ち手を貼り付けていく。Aちゃんは板をリールに載せた状態で、立ったままで持ち手を付ける。今度は下がっている向こう側の板に持ち手を付けるために、自分がいる方の板を押して下に下げる。そうすることで向こう側は上に上がる。



Aちゃんは、上がった向こう側に立ったまま持ち手を付けたい。しかし、自分が板を下に押さえている所から離れると、向こう側はまた下がってしまい、持ち手を付けたい板は上がらない。先ほどまではバランスがとれて上下する板であったが、遊ぶうちに支点がずれてしまった。片方に傾く板に、持ち手を付ける事になり、「誰か押さえといてー」と、友達に応援を頼む。



- 友達の協力もあって、シーソーに持ち手を付けることができたAちゃんは、「シーソーができた！」と言ってシーソーの形ができたことを喜ぶ。保育者は、Aちゃんの発想に共感し、工夫している姿を認める。

✦ 「シーソーが動かない！」

- 2日後Aちゃんは、「シーソーの続きをする」と言って、Bちゃんと一緒に板やリールを運んでくる。保育者は友達同士で協力して準備をしている姿を近くで見守る。2人でリールに板を載せるが、真ん中から少しずれている。保育者は子どもが疑問に思ったり、さらに試したり工夫したりして欲しいという思いから、板が真ん中からずれていることはあえて言わないで子どもの様子を見守る。



- タイヤを置き、持ち手を付けてBちゃんとシーソーに乗るが、板は片側に傾いたままなかなか釣り合わない。
- 2人は、「えーなんで。ギッタンバッコンならないの?」と言って地面を蹴ったり、お尻を浮かせたりしながらなんとか板を動かそうとする。保育者はすぐに答えは出さず、子どもがどんなことを考え、どんな方法を見付けていくのか見守る。
- Aちゃんは何かを思い付いたように、「こっちに乗ってくれへん?」と、近くにいた3・4歳児に声をかける。乗る人を増やして板を真っ直ぐにさせようとするが、なかなか釣り合わない。
- 次に「Cちゃんは向こうに乗って」「Dちゃんはこっち」と言ってシーソーに乗っている人を入れ替えて試してみる。まだ釣り合わない。

✦ 「シーソーが動き出す！」

- 何度か繰り返したのち、最後にAちゃんは、「みんなこっちに乗って、先生はあっちに乗って」と近くにいた保育者を誘う。試してみると、保育者1人と子ども4人でやっと板が真っ直ぐになる。傾いたままだった板がようやく動き出し、「やったあ!」と子どもたちが歓声を上げる。
- 保育者はAちゃんが考えたり試したりして最後まで諦めずに頑張ったことを十分認め、シーソーが釣り合ったことを一緒に喜び合う。



✦ 考察

- 「シーソーを作りたい!」という好奇心で、Aちゃんが用具を組み合わせるイメージしたことを実現していった。夢中になって遊ぶ中で、「シーソー作り」を実現するためには、友達の協力が不可欠であることも経験した。リールに置いた板がずれていたことから、前は上手くいったことが今回は上手くいかなかったが、「リール」「板」「重さ」など、もの・ひと・ことの関係性を感じ取りながら、試行錯誤を繰り返していた。
- 「シーソーを真っ直ぐにしたい」と、最後までやり遂げた達成感は大きかった。まわりの子どもたちを仲間にしなが遊び、次第にみんなの、やりたい、試したいという気持ちの強まりに繋がった。
- 一人一人の思いや気付きに共感し、取り組みを認め、一緒に考えたり試したりしてくれる友達や保育者がいることで、安心感もち遊びが継続した。そして、さらに探求心が芽生え、「なぜかな?」「不思議だな?」「調べてみたいな」という向上心が生まれるなど、「科学する心」の育ちに繋がったことが分かった。

